



「靴そろえなんか」

「靴そろえなんか」…埼玉県「家庭用 彩の国の道徳」中学生向けの作文資料「父の一言」の中に出てくる中学校2年生の作者のセリフです。定期テストでうっかりミスが多くて思ったような点がとれず、夕食でそんな話をしているときの作者（子）と父の会話です。

父…「おまえはいくら言っても靴をそろえることができない。だからテストでも思うようにできないんだ。」
子…「そんなこと、関係あるわけじゃないか。靴そろえなんかできたって、テストで点は取れないよ。」
父…「おまえ、今『靴そろえなんか』と言ったな。でもおまえはその『なんか』すらきちんとできていないじゃないか。偉そうなことはできるようになってから言え。」

普段は無口な父の言葉にはっとさせられた作者は、自分が所属しているテニス部で、県大会出場間違いなしから一転、まさかの予選敗退の要因について、「靴そろえ」や「あいさつ」「服装」等の日常の生活態度について反省すべき点があったことに気づきます。

「凡事徹底」 —当たり前なことを当たり前にする— あいさつ・返事・脱いだ靴をそろえる は鴻巣西中の「校訓」です。しかし、私は、始業式で2・3年生に向けて、「もう西中は、あいさつも返事もしっかりできて、脱いだ靴をそろえられるようになったから、この校訓は必要なくなりましたというようにしましょう。そうしないと、地域の方から、西中はいつまで経っても、今だに、あいさつ、返事、靴そろえができない学校だと思われてしまう」という話をしました。

私が、本校赴任早々気になっていたのは、自転車置き場の雑然とした自転車の置き方でした。斜めに駐めてある、雑な駐め方のため並べられずはみ出している自転車がある、ヘルメットは荷台の上、荷ひもはだらんと荷台からぶら下がっている、そして鍵の抜き忘れ……。もちろん整然と駐め、ヘルメットはカゴに、荷ひもは荷台に結びつけられている生徒もいます。

また、始業式では「終わりは次の始まりの準備」と言いました。脱いだ靴を揃えておくと次に履くときに履きやすいし、見た目もきれいです。脱ぎっぱなしだと、見た目も悪いし場所も取るし、誰かがうっかり踏んで転んでけがをしてしまう恐れもあります。自転車も同じです。最初に来た人が整然と駐めておけば、次に登校した人がそれに習って整然と駐めます。6月1日の登校後の自転車置き場は雑然とした状態でありましたが、昼休みには直されていました。斜めの自転車はまっすぐに、ヘルメットや荷ひもがカゴの中に入れてありました。前日に委員会活動があり生活安全委員会の話合いの中で自転車置き場の話題も出ていて、自分たちにできることは何かを考えた結果の行動だったようです。素晴らしいことです。今後、自転車通学者が自覚を持ってくれれば、この委員会の活動もいずれ良い意味でなくなるでしょう。

学校という所は生徒一人ひとりが学校の「看板」を背負っています。だれか一人でも悪い行いがあると、西中生全体の評判が落ちます。逆に、一人でも良い行いをすれば、西中全体の評判が上がります。かつて、修学旅行で埼玉県内西部地域のある中学校の東京駅で新幹線下車後、清掃員が車内のきれいな使い方に感動して、その思いを手紙にしたためてその学校へ送ったことが新聞で紹介されたことがありました。「習慣」は一朝一夕で身につくものではありません。最初は意識して行動していたことが意識しなくても自然とできるようになる。まさに、それが本当の「凡事徹底」です。

登校指導で学校の周辺を回っていて、気付いたことがあります。それはポイ捨てゴミがほとんど無いということです。実はこれ、鴻巣高校の生徒が定期的に早朝、ゴミ拾いをしていてからです。

(校長 橋本 浩)